

第7分科会

ポストコロナで遠隔授業をどのように活用できるか

分科会概要：

新型コロナウイルスの感染拡大による大学休講措置は、新たな教育方法を見出す契機となった。遠隔授業（オンライン授業）はその最たるものであろう。新型コロナウイルス感染症との付き合い方を知り、通常の生活に戻りつつある現在、多くの大学では対面授業が再開している。文部科学省の調査によれば、**2022**年度前期の授業を「半数以上を対面授業とする」と答えた大学等は**1,165**校中**1,157**校（**99.3%**）、「7割以上と対面授業とする」と答えた大学等は**1,116**校（**95.8%**）に上っている。しかし、「遠隔授業」には利点も多くある。遠く離れた大学との共同学習のしやすさ、チャットでの一対一の対応が可能になったことで学生との距離が近づいた大人数対象の講義、場所を選ばず授業ができる・受けられる利便性などである。せっかく獲得した「遠隔授業」の技術、設備を今後活用しないのはあまりにももったいないのではないか。そこで、本分科会では①DXを活用した授業運営 ②他大学との協働授業 ③海外からのオンライン授業の**3**つの事例を取り上げ、ポストコロナでの遠隔授業の可能性について考えてみたい。

<プログラム>

9：30 趣旨説明

京都外国語大学 外国語学部 教授 畑田 彩 氏

9：40 「イマーシブテクノロジーとヴァーチャルトラベルによる文化交流」

京都外国語大学 国際貢献学部 教授 エリック・ハーキンソン 氏

※ エリック・ハーキンソン氏の講演は日本語で行われますが、スライドについては英語になる可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

10：10 休憩

10：15 「COIL3.0を共創する一次代の国際教育のあり方の探求」

関西大学 国際部 教授 池田 佳子 氏

10：45 休憩

10：50 「遠隔地からの授業の利点や限界——教員側の視点から」

京都外国語大学 非常勤講師 前川 愛 氏

11：20 休憩

11：25 質疑応答・パネルディスカッション